

一般財団法人京都ユースホステル協会

2024年度事業報告書

期間：2024年4月1日～2025年3月31日



“Say Hi to the world 一旅の持つ力”

若者が世界（旅）の扉を開けて 学びや発見に出会うために

ユースホステルはいつも彼らを応援します

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町 29 宇多野 YH 内

TEL: 075-462-2312 FAX: 075-462-2289

URL: <http://www.yh-kyoto.or.jp> E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目 次

目 次	1
はじめに	2
数値目標達成状況	3
事業活動概況	
I. ユースホステル活動	4 - 7
II. 宇多野ユースホステル（指定管理事業）	8 - 10
III. ユースホステル関連活動	11 - 13
IV. 天橋立ユースホステル	14 - 15
V. 組織運営	16
財務状況	17 - 18
(別添資料) 2024 年度事業別詳細資料	

はじめに

２０２４年度は、物価上昇や困難な人員補充、新しい宿泊管理システムの運用などの他に、京都市で検討が進められていた施設設備の更新負担等を見据えた「宇多野ユースホステルの今後」について、こうした課題に応える取り組みや解決の為の提案等が求められておりました。

そうした中で、人員補充や新しいスタッフの育成に取り組むと共に、これまで以上に効率的な運用を行う上で不可欠な宿泊管理システムの導入、運用をスタートさせました。システムの更なる効果的な運用の為に、活用の中で気づく修正や改善等に継続して取り組み、業務の効率化だけでなく利用者への新たなサービス提供や満足度向上への取り組みにも活用していくことが出来ように、運用、改善を進めてまいります。

また、「宇多野ユースホステルの今後の課題」や物価上昇、人員の補充や採用で課題となっていた「給与等の処遇の改善」については、取り組みを進めるために不可欠となっていた宿泊費を含む「施設使用料の改定」が、３月の市議会で承認され、２０２５年７月より新料金での運営が可能となります。

この料金改定では、会長をはじめ多くの理事や役員の皆様のご支援をいただいた他、京都市においても今後の課題である施設の設備更新の負担を運営収入から賄うといった提案に対し、ご理解をいただき実現することができました。

人員補充については、まだ十分に満たすことは出来ておりませんが、業務を細分化しパート勤務者の補充等を行いながら、職員の処遇改善などの運営体制の充実に努める他、新たな地域や社会のニーズに応えた役割や機能を果たす上で必要な収入基盤の改善に取り組めることから、これまで以上に地域に必要な施設としての取り組みも充実させてまいります。

ただ、こうした取り組みの為に様々な活動者や団体、地域との更なる連携が必要となる他、こうした取り組みを支援するボランティア等の組織づくりが必要となっております。

そうした中で２０２４年度の決算の当期収支差額は、**3,905,956**円となりました。また、宇多野ユースホステルの運営実績については、利用者数は、**34,025**名（昨年度比**367**名の減少）となりましたが、宿泊利用者の部屋占有利用が増えたことから、利用等の事業収入は、**121,274,201**円（前年比**1,202,581**円の増収）となりました。

食堂等の運営につきましては、食事の摂取数等が増えた一方、食材費他の上昇により当期収支差額は**-91,292**円となり、まだまだ厳しい運営が続いております。

天橋立ユースホステルについては、事業収入での運営委託を行っているため、当協会への費用負担は発生しませんが、施設や設備の老朽化が進行しており、宮津市や運営委託者と今後の対応や検討等の協議を進めてまいります。

こうした課題への対応を通じて運営能力を高めることは、宇多野ユースホステルをはじめとする施設の価値や可能性を広げると共に、若い世代の育成や災害時を含めた地域や市民等の期待に応える施設としての役割の充実に努めてまいります。

今回の利用料金の改定は、公的施設の新たな運営の可能性を切り開く機会と捉えておりますので、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

専務理事 高田光治

数値目標達成状況

(1) 事業・取り組み

事業活動	年間目標設定項目	目標数	実績数	達成度
宇多野 Y H	宿泊実績	35,000 名	34,025 名	97.2%
	学校団体利用実績	130 校	141 校	108.5%
	スポーツ団体利用実績	70 団体	53 団体	75.7%
Y H 関連活動	夕食提供数	15,373 食	16,381 食	106.6%
	朝食提供数	26,159 食	24,977 食	95.5%
天橋立 Y H	宿泊実績	2,900 名	3,333 名	114.9%

(2) 収支状況（経常増減額）

	一般会計 建設基金	物頒会計	宇多野会計	天橋立会計	合 計
予 算	▲756,000 円	533,000 円	1,737,000 円	0 円	1,514,000 円
実 績	128,843 円	▲91,292 円	3,867,371 円	1,024 円	3,905,956 円
差 額 (対予算)	884,843 円	▲624,292 円	2,130,371 円	1,024 円	2,391,956 円

事業活動概況) I. ユースホステル活動 (青少年事業・旅行事業)

人員の不足により体制を見直す中で、今年度は宇多野ユースホステルの運営に注力して取り組みを進める1年でした。事業活動につきましては、宇多野ユースホステルを中心に事業等を展開し、スタッフを効率的に配置して施設管理業務と一体化するなど、限られたスタッフの中で工夫しながら事業や施設運営に取り組みました。

(1) トピックス

1. 課題を持つ青少年へ旅を贈る事業の実施

昨年に引き続き、「ユースホステルから旅を贈ろう」と題して、社会的に課題を持っている青少年を対象とした宿泊事業を開催しました。今回の対象者は、社会的養護の施設等を退所して孤立していた若者やこれから退所を控えた若者等を招待し、交流を深める宿泊プログラムを実施しました。



本事業は、日本ユースホステル協会においても重点施策の一つとして掲げており、全国のユースホステルにも取り組みを促し、ユースホステルの社会的役割の一つとして広がりを見せています。

日時：2025年3/1(土)～3/2(日) 参加者：13名

共催：(公財)京都市ユースサービス協会 支援・協力：京都ライオンズクラブ



2. 宿泊する海外グループと地元市民との交流機会の提供

a. アメリカ・アラスカの小学生グループと大谷大学の学生による交流会



地元京都の大谷大学との交流企画を実施、大学生からは念珠づくりを子どもたちに教え、子ども達からは日本語でアラスカの地元紹介をしてもらい、相互交流を図りました。



日時：2024年6月10日(月)

参加者：小学生側24名、大学生側26名

b. アメリカの中・高校生グループの地元小学校訪問



地域格差による貧困家庭や課題のある青少年を支援する

NPO が主催する訪日企画の一

つとして、地元京都市立宇多野小学校を訪問し、児童たちとの交流会を実施しました。普段授業で行っている「Welcome to Japan.」の単元で日本のお祭りや行事を紹介、後半は折り紙やゲームで交流をしました。

日時：2024 年 7 月 18 日（木）

参加者：訪日中高生 10 名、地元児童 80 名



3. 国内外のインターンシップや就労支援、社会体験等の青少年の受入事業

台湾・南台科技大学からは夏休みの約 2 か月間に 3 名、アメリカ・ノーステキサス大学からは年末年始の約 1 か月間に 4 名の学生を受け入れました。就労体験活動だけでなく、自分たちでイベントを企画し、台湾の学生は台湾式クレープ「蛋餅（ダンピン）」の試食会を実施しました。アメリカの学生は、宿泊者に生八つ橋づくりを教えるなどの体験交流会を実施しました。その他にも、SNS による自分たちの京都の生活についての情報発信も行いました。



- ・京都市立鳴滝総合支援学校から年間通して就労支援に関する実習の受入：延 107 名
清掃実習のほか、枕カバーのクリーニングについては集配や集金作業も含め実施
- ・京都市教育委員会「生き方探求・チャレンジ体験」での中学生受入：6 校 12 名
(嵯峨中学校、太秦中学校、蜂ヶ岡中学校、衣笠中学校、西賀茂中学校、京都教育大附属小中学校)
- ・宇多野小学校 2 年生「もっともっとまちたんけん」受入対応：6 名
- ・大学コンソーシアム京都からのインターンシップ受入：同志社大学 1 年生 1 名
- ・京都市立芸術大学の学生等と「宇多野周辺マップ」を共同作成

4. 活動団体等と連携、共催する体験活動の継続実施や支援

a. 年間を通じた子どもたちの野外自然体験事業「ネイチャーキッズ」

小学生を対象に、5月より月1回、計11回の例会を実施しました。8月には2泊3日の天橋立ユースホステル宿泊企画、3月には宇多野ユースホステルでの宿泊企画も実施しました。参加者だった子どもたちが大学生となりリーダーとしても活動に戻ってきてくれています。

年間参加者登録数：16名 例会参加者数：延 134名



b. まいまい京都との連携、旅行企画の実施

まち歩きイベントのまいまい京都が合同会社に移行したこともあり、昨年度までの受付等を行う事務局業務の契約を終了しました。今年度は交通や宿泊の手配を伴うツアー等に関して協会の旅行事業として引き続き協力して実施いたしました。今後の旅行業務の取り扱いや連携の継続等については引き続き協議を行っています。

旅行業を使った募集型企画旅行数：29コース 参加者：延 586名



c. ガリレオサイエンス教室

幼児から中学生までを対象として、理科実験を通して子どもの自主性や協調性を育む年間プログラムを提供しています。

5. 近畿ブロックYHでの取り組み

アウトドアメーカー「モンベル」の5年ぶりとなる対面式の大型イベント「フレンドフェア」に近畿ブロックユースホステル協議会として出展しました。当日は家族連れも多く、ブースでも子ども向けの体験イベントの実施や家族会員証の無料発行の他、各YHのPR等を行いました。

日程：2025年3/15（土）～16（日） 場所：インテックス大阪

来場者数：3/15：6,000名、3/16：5,500名 計：11,500名



事業活動概況) II. 宇多野ユースホステル (施設運営)

2024 年度は、日本人の宿泊者数は微増しましたが、外国人宿泊者数は昨年度よりも約 1,000 名少ない実績となりました。団体で見ると、中国からの京都の大学訪問等で来ていた学生団体が大幅に減少した事、また二年に一度のスケジュールで訪日する団体も多いことも一因であると考えます。個人の場合は、円安による割安感からシーズン外であればホテルへ、またはアクセスのよい類似施設への宿泊移行が影響していることが考えられます。あわせて、8 月下旬に日本列島に 1 週間停滞した台風により、学校団体を含む延 400 名ほどの宿泊がキャンセルとなり大きく影響しました。宿泊数については昨年度と比較し減少はしたものの、コロナ禍前の水準に戻りつつある手ごたえは感じております。

コロナ禍が収束し、YH の特長であり役割でもある、様々な人々が集う交流事業も少しずつ実施ができるようになってきました。一方で人手不足が続く運営体制については、当初見込んだ職員数の補充はできず、働き増しの中で運営を継続してきました。物価高騰や最低賃金上昇などに対して、宿泊費を上げることができない現状においては賃金の見直し等の改善も難しい状況でしたが、京都市と協議を続け、施設設備の修繕等の負担といった新たな課題が浮上しましたが、次年度宿泊費について 7 月より料金改定が承認されました。

(1) 目標と達成状況

■年間宿泊実績目標：35,000 名 結果：34,025 名

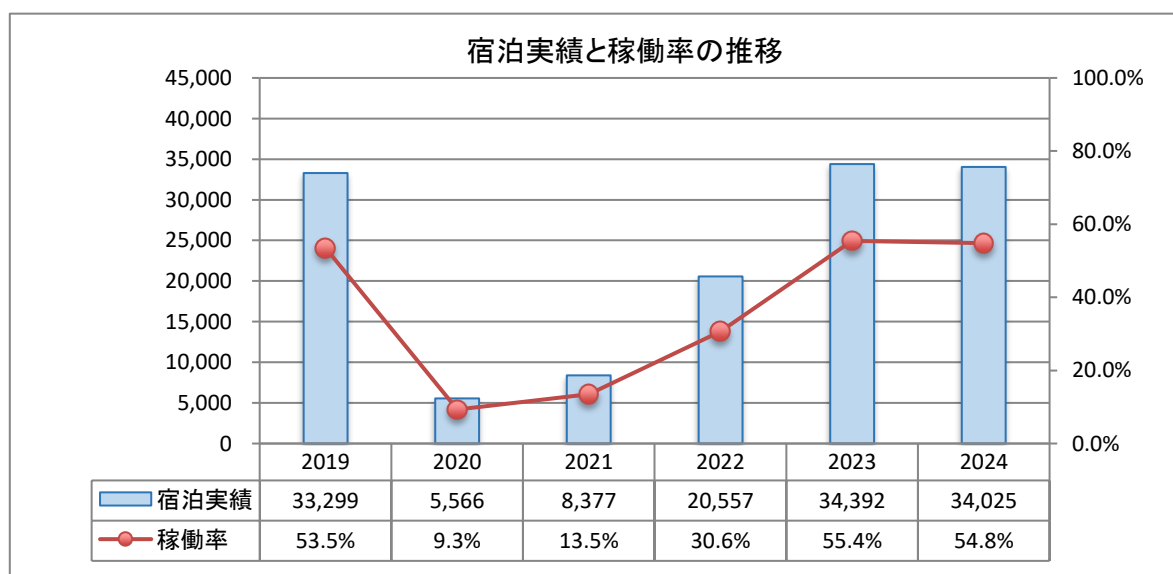
(目標達成率：97.2%、対前年度 367 名、対前年度比：▲1.1%)

■年間学校団体利用実績目標：130 校

結果：141 校 (目標達成率：108.5%、対前年度：+13 校)

■年間スポーツ団体利用実績目標：70 団体

結果：53 団体 (目標達成率：75.7%、対前年度：▲13 団体)



（２）トピックス

１．部屋の貸し切り利用の大幅な増加

通常、部屋を貸し切りで使用する際には、部屋の人数分のベッド数が占有料金として必要となります。特に個人予約においてはドミトリー（相部屋）ではなく、部屋を貸し切りで使用したいというニーズが増えてきた事とあわせて、貸し切り料金を支払ってもなお、割安の料金という認識があるものと思われます。

年 度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
占有数	970	1,242	1,124	830	1,978	3,203
宿泊数	38,706	35,392	33,299	20,557	34,392	34,025
占有含めた宿泊数	39,676	36,634	34,423	21,387	36,370	37,228

※コロナ禍の 2020 年、2021 年は省略

２．市民と共に学び楽しむ交流事業の展開

a. 「うたのユース OpenDay & 秋マルシェ」開催

地元右京区地域の方を中心に出店いただき、一般市民や旅行者の方との交流を楽しんでいただけたマルシェを実施しました。 日時：2024 年 11 月 10 日（日） 参加者：約 500 名



b. ニホンミツバチの観察と蜂蜜採取会

環境保全啓発の取組の一環として、市民団体「京・みつばちの会」と協力し在来種のニホンミツバチを飼育しています。蜂蜜の採取会をうたの・ひこばえ児童館の子ども達を招いて実施、長期宿泊中のフランス学生グループも参加し蜂蜜の試食を楽しんでももらいました。

日時：2024 年 8 月 20 日（火） 参加者：30 名



c. 子どもたちだけの旅の宿泊体験「フレンドステイ」プランの実施



小学生高学年～高校生の3名～6名のグループを対象に、自分たちだけで寝食を共にし、絆を深める1泊2日の体験宿泊を実施しました。夜にはアウトドア体験として火起こしからの焚火とあわせてデザートミニピザづくりや焼きマシュマロを大学生リーダーと一緒に楽しみました。

期間：1/10～3/8の間の金曜日または土曜日の1泊2日 参加人数：16組61名

3. 宿泊予約管理システムの本格稼働と活用

コロナ禍より一部運用を始めていた宿泊予約管理システムですが、今年度本格的に稼働を開始しました。長年使用してきた紙台帳からの変更となり、事務処理の向上や数の把握の簡略化など効率的な運用となっています。一方で団体含め多種多様な形態の予約が入る中で、細かな情報の共有やOTAからの金額が一部取り込めない不具合等も出ており、トライ＆エラーを繰り返し運用改善を進めております。

事業活動概況）Ⅲ. ユースホステル関連活動（食堂・物販）

引き続き個人および外国人の旅行者においては、泊食分離傾向が続いています。今年度は外国人の宿泊が減り日本人が少し増えたことや各種取り組みを進め摂取数・率共に若干改善しました。

朝食に関しては今年度料金改定（750 円→800 円）を行い、内容についても見直し、プレート提供とあわせて、ブッフェスタイルで取っていただける品数を増やしました。その他、ベジタリアンやビーガン対応用の専用朝食メニューの提供、夕食に関しては、大人用メニューしかなかったものを新たに子供向けディナーも新設し、小さい子供がいる家族にも楽しんでもらえるようにしました。更に、昨今の物価高騰を鑑み、次年度に向けて大幅な夕食のリニューアルを図るべくメニュー開発に力を入れました。その他、職員の休暇の消化や業務の効率化のために「食事提供なし」の日を事前に設定するなどにも取り組んでおります。

（１） 目標と達成状況

■夕食提供目標数：15,373 食（摂取率 43.9%）

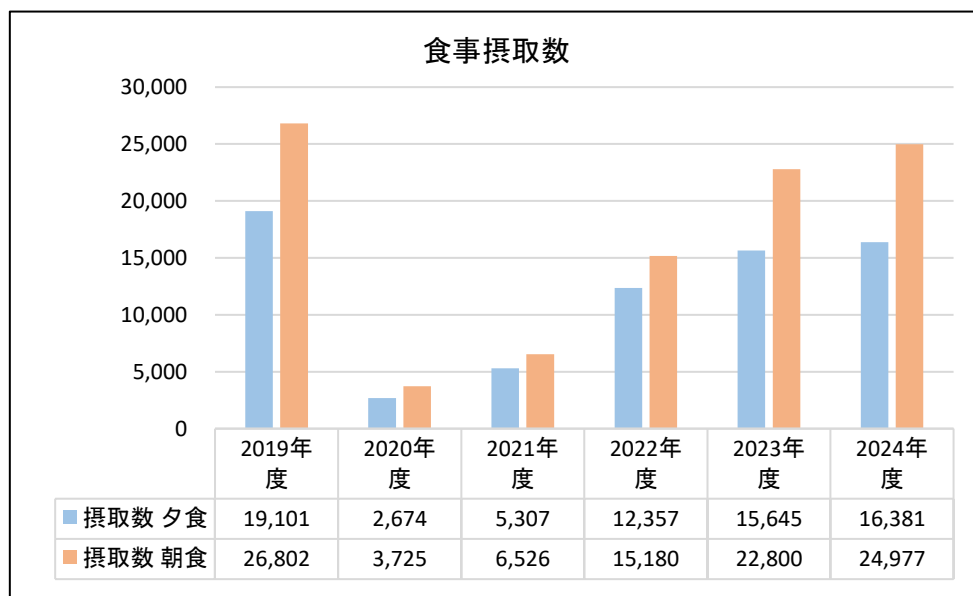
結果：16,381 食（摂取率 48.1%）

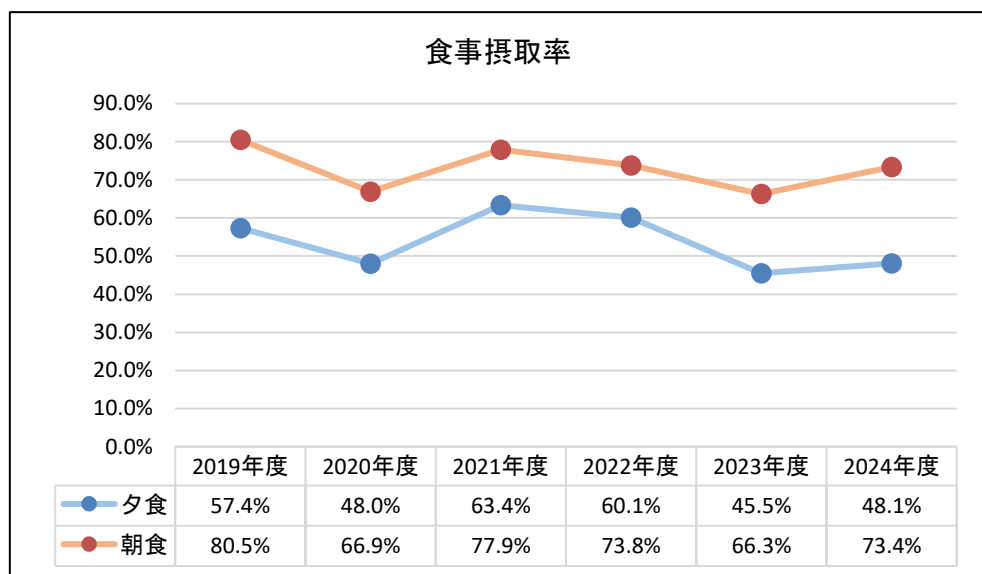
（目標達成率：106.6%、対前年摂取率：+2.6%、対前年度比：104.7%）

■朝食提供目標数：26,159 食（摂取率 74.7%）

結果：24,977 食（摂取率 73.4%）

（目標達成率：95.5%、対前年摂取率：+7.1%、対前年度比：109.5%）





(2) トピックス

1. 新たなニーズに応えるメニューの開発と提供

今までも個別オーダーメイドで対応していた、ベジタリアンやビーガン、グルテンフリーやムスリム等ライトハラール用の朝食について、専用メニューの提供を開始したほか、や小さなお子様向けの夕食メニューの提供も開始しました。なお、食物アレルギーに対しては、個別の要望に合わせたメニューで対応しております。

また、次年度の夕食メニューのリニューアルに向けて、新メニューの検討・試食などを進めてまいりました。



2. 好評を続けるワールドディナー

昨年度より継続実施している「宇多野ユースホテルで世界を味わうワールドディナー」もリピーターが増え、毎回満員となっています。これをきっかけに宿泊とあわせてご利用いただく方も出て来ております。地域の方にユースホテルを知ってもらい利用する機会に繋げると共に、宿泊や夕食提供が比較的少ない平日に開催日をする事で、収益増を図る事業の一つとしても取り組んでまいります。

- ・ 4/19 ドイツディナーの日：80 名
- ・ 6/21、7/19 ベトナムディナーの日：延 159 名
- ・ 8/30、9/1 世界のカレーバイキングの日：延 118 名
- ・ 9/20、2/14 チェコディナーの日：延 181 名
- ・ 12/20、1/24 北欧ディナーの日：延 144 名

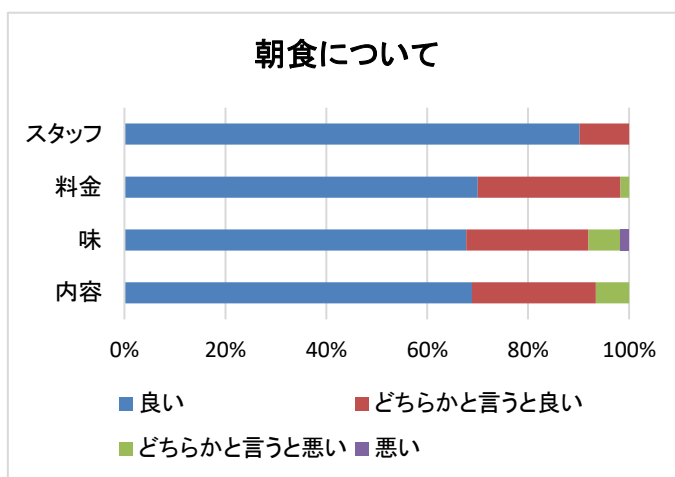
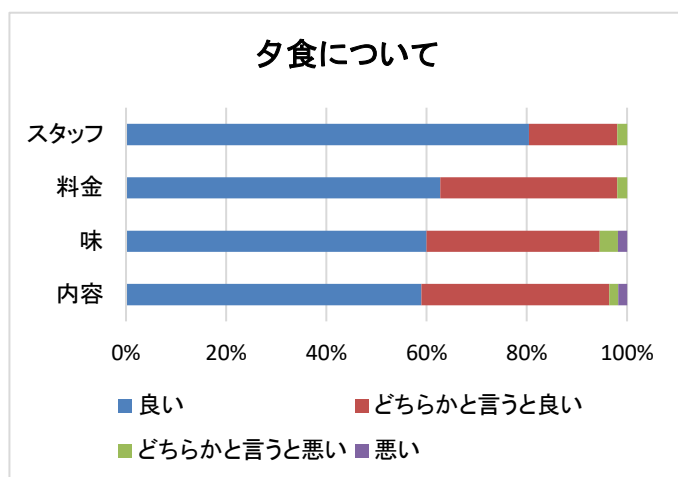


ワールドディナーとあわせて、市民のボランティアによる演奏会等の交流や発表の機会を提供し、楽しんでいただきました。



宿泊者アンケートより

N=57



事業活動概況）Ⅳ．天橋立ユースホステル（施設運営・食堂・物販）

2024年度は、年度目標 2,900 名に対して 3,333 名と利用者数を伸ばすことができました。特に平日に外国人の利用が増えたことや春、夏などの長期休暇時の団体利用等の増加が宿泊増に大きく貢献しました。

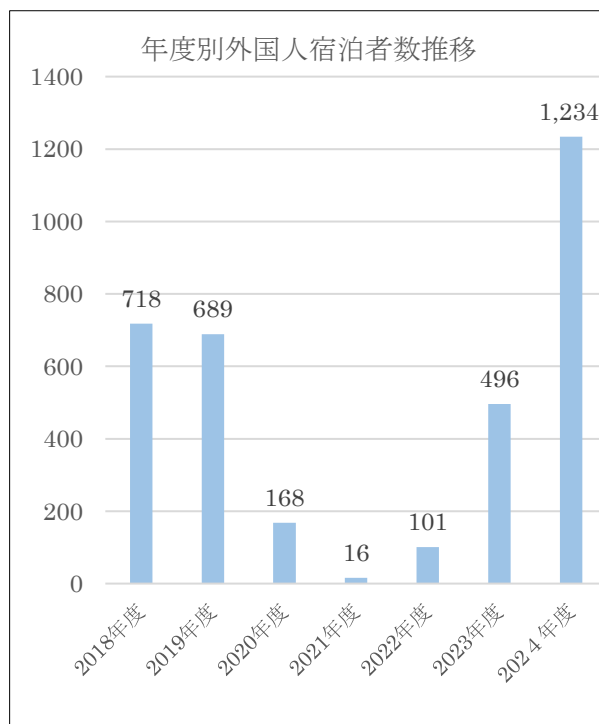
施設規模としては部屋数が 8 部屋ということもあり、前年度のゴールデンウィークや年末年始などの繁忙期には、ドミトリ利用において予約の重複等のミスが重なるなどの状況もあったため、本年度のゴールデンウィークや年末年始の家族や団体予約では、部屋の貸切利用を中心に予約を取るなど、現場の受付業務等の負担の軽減を図った。

また、冬期や閑散期には館内照明器具を LED へ交換する他、自転車などを置いていた食堂下の空間に照明器具を取り付けなどの改修を行い、夏期の子ども向け事業等に活用することができました。

（１）取組の達成状況

■ 年間宿泊実績： 3,333 名（対前年度：858 名増）

（宿 泊）	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2019 年度実績	739 名	1,236 名	775 名	631 名	3,381 名
2020 年度実績	124 名	703 名	393 名	186 名	1,406 名
2021 年度実績	87 名	163 名	313 名	67 名	630 名
2022 年度実績	306 名	497 名	697 名	218 名	1,718 名
2023 年度実績	240 名	790 名	657 名	788 名	2,475 名
2024 年度実績	1,009 名	1,087 名	816 名	421 名	3,333 名



（２）トピックス

■春休み、夏休み、冬休みに子ども向け自然体験活動事業を実施

PENS（ポジティブアースネイチャーズスクール）で募集を行い、京都市内や、兵庫県から１日およそ２０名程度の子どもたちが、延べ日数約３０日に渡り参加。



■玄関前にウッドデッキを設置

宿泊利用者や、真名井神社に参拝に来られる人が宮津湾や天橋立の景色を見られるように玄関前にウッドデッキを作成しました。



■自転車置き場となっていた食堂下のスペースを改修して活用

夏の子どもの事業利用に向けて、これまで上手く活用ができていなかった食堂下の倉庫部分の天井に照明を設置し（電気設備士の資格を持つスタッフが担当）子どもの食事や集会場所として活用しました。



■雑草対策や事業利用を目的に人工芝を設置

こうしたエリアを活用して春には親子キャンプを実施し、参加者とお花見などを行いました。



事業活動概況) V. 組織運営

2008 年の施設リニューアル以降、宇多野ユースホステルの利用料金は消費税増税分の見直しにとどまり、宿泊料金等は据え置かれてきました。年々物価や人件費が上昇する中で、給与等の処遇の改善も難しく、そうしたことから求人を行っても応募につながらないなど、職員を確保することが困難な状況が続いていました。

そうした中で、10 月に当協会会長と京都市との協議等が行われ、これまで難しいとされていた料金改定による運営の方向性が示されました。その後の協議を経て京都市がこれまで課題としていた設備更新等の費用負担については、料金改定後の増収分で運営側が一定負担していく案で合意を得ることが出来たことから、その後は急ピッチで料金改定の詳細について調整を重ね、2 月京都市会にて承認されました。7 月 1 日より改定料金での予約が開始されます。

新たな改定後の利用料金では、京都市の施設として市民が利用し易いように“市民割引の導入”や“集会室利用料の据え置き”などが行われました。また、年間 120 日までの“繁忙日料金の設定”、“3 人部屋料金の導入”なども新たに盛り込まれました。

今後は、宿泊料金の改定と年間の宿泊者数を維持・上昇させることにより、職員の処遇改善や施設や設備の維持・改善、長期の設備更新等の費用を捻出し、市の財政負担の少ない持続可能な指定管理施設の運営に取り組んでまいります。

また、人手不足解消と多様な人材に活用の一つとして、春休みの繁忙期には短期間・短時間アルバイトの“おてつたび”などを活用しました。短期間で覚えやすい業務等に限られ紹介手数料等も発生しましたが、繁忙期等の短期の人員補充には活かせることが確認できました。

今年度の目標の一つとして掲げていた「持続可能な組織運営のための新たな方向性や事業展開の検討」については、宇多野ユースホステルの安定的な運営を優先したため、検討が後回しとなってしまいました。宇多野ユースホステルの料金改定が決定し、今後の運営についても展望が開けてきましたが、当協会の“今後の課題”については引き続き検討を進めてまいります。

財務状況

(1) 概 要

1. 決算概況

当協会の基幹事業である宇多野ユースホステルの運営は、年間宿泊実績が 34,025 名と目標としていた 35,000 名には至りませんでした。家族やグループでの 1 室貸切利用の増加などにより、テニスコートや集会室の利用料収入を含めた事業収入は、対前年度比で 1,128,869 円の増収となりました。

一方運営面では 4 月より職員補充を 1 名に抑え、職員給与は前年度より増加しましたが、前年度のような大幅な休日出勤などによる手当支給が少なくなり、休日を計画的に取得できるようになりました。その他、物価上昇等もあり消耗品費や光熱水費、旅行会社やクレジットカード会社への手数料などの運営費用は、対前年度で 5,152,165 円の増加となりました。

その結果、宇多野 YH 会計の当期収支差額は 3,867,371 円（対前年度比：▲3,949,584 円／対予算：2,130,371 円）となりました。

(単位：円)

	一般会計	物頒会計 食堂・物販	物頒会計 旅行事業	宇多野 YH 会計	天橋立 YH 会計	建設基金 会計	合 計
収 入	11,497,241	54,347,632	130,000	121,274,201	15,867,330	795	203,117,199
支 出	11,369,075	53,840,178	728,746	117,406,830	15,866,296	118	199,211,243
収支差額	128,166	507,454	▲598,746	3,867,371	1,034	677	3,905,956
(対予算)	887,166	▲677,546	53,254	2,130,371	1,034	▲2,323	2,391,956

また、もう一つの大きな自主事業会計となる宇多野ユースホステルでの食堂運営・物品販売については、食材費等の上昇から厳しい運営状況が続きました。夕食は目標提供数を超え（対目標値：106.6%）、4 月からは朝食料金を 50 円値上げ（一部経過措置として旧料金適用）した結果、物品販売を含む事業収入は対前年度比で 5,802,722 円の増加となりました。

一方運営費用については、食材費や人件費の上昇、補充スタッフの求人費用や研修期間設定などによる経費の増加等により、食堂運営・物品販売の当期収支差額は 507,454 円（対前年度：345,539 円）になりました。

物資頒布会計／旅行事業については、人員不足から 2023 年度末でまいまい京都との事務局業務委託契約を終了したことにより、当期収支差額はほぼ予算通りの▲598,746 円となりました。

管理運営を外部委託している天橋立ユースホステルについては、現地での宿泊・食事等の収入額と同額を運営委託料としているため、また一般会計・管理費は各特別会計からの負担金により運営しているため、いずれも収支均衡の状態となっております。

また 2024 年度は、宇多野ユースホステルで故障したエアコン等の設備修繕のために、修繕引当金の一部（647,185 円）を取り崩し、修繕を行いました。

また、コロナ禍からの利用の回復が一定見通せる状況となったため、日本政策金融公庫より借入れを行っていた長期借入金の一部（半額の 1,000 万円）を 1 月に返済し、利息負担の軽減を図りました。

2024 年度の協会全体の当期収支差額は 3,905,956 円（対前年度比：▲2,673,020 円、対予算比：2,391,956 円）、当期正味財産期末残高は 69,572,017 円となりました。

[経営実績の推移]

(単位：円)

科 目	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
経常収益（収入）	101,433,357	95,289,810	131,099,672	190,717,546	203,117,199
事業推進業務	18,086,269	32,188,114	44,866,238	54,250,724	54,576,032
指定管理業務・施設運営	73,870,300	55,195,042	77,595,093	128,559,149	137,141,531
組織運営業務	9,476,788	7,906,654	8,638,341	7,907,673	11,399,636
経常費用（費用）	116,117,535	105,938,254	146,617,547	184,138,570	199,211,243
事業推進業務	21,063,681	24,744,259	46,556,115	55,407,834	55,489,953
指定管理業務・施設運営	88,158,496	74,156,609	91,705,534	120,797,685	133,273,126
組織運営業務	6,895,358	7,037,386	8,355,898	7,933,051	10,448,164
当期経常増減額（経常利益）	△14,684,178	△10,648,444	△15,517,875	6,578,976	3,905,956
経常外増減額（経常外利益）	0	△9,311	△181,272	0	0
当期正味財産増加額（純利益）	△14,684,178	△10,657,755	△15,699,147	6,578,976	3,905,956
正味財産期末残高	85,443,987	74,786,232	59,087,085	65,666,061	69,572,017